

2023

8.30 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_CgwlpfIMR3etboMMSXL7JQ](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_CgwlpfIMR3etboMMSXL7JQ)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

## 世界を規定する：

マインドフルネスからインターメディア・ポエトリーまでの認知科学

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

3 すべての人に  
健康と福祉を4 質の高い教育を  
みんなに8 働きがいも  
経済成長も

## クロンツ シャルレーヌ 准教授

人文科学研究院 文学部門 仏文学

クロンツ・シャルレーヌ先生はフランス南部出身で九州大学・人文科学研究院の准教授（博士）です。2008年までフランス南部に在住。ポー大学の研究員を経てパリに移り、パリ・パンテオン・ソルボンヌ大学、パリ・エスト・クレテイク大学、フランス教育省などで10年間勤務しました。2018年に、日本の九州大学に着任しました。主な研究テーマは、フランスとフランス語圏の詩（20世紀と21世紀）における形式としての詩学、相互媒介性、パフォーマンス、空間と媒介、詩と芸術の関係です。最近、フランス語圏の詩人ゲラシム・リュカについての本を出版しており（Gherasim Luca: Texte, Image, Son, Oxford/Bern, Peter Lang, 2020）、折り紙に関するジル・ドゥルーズの哲学的思想を更新する共同出版物を編集しました（Origami, le pli dans les littératures et les arts, special issue of Pau University's Op.）。また、いくつかの国際研究プロジェクトを推進しています。特にAVANTGARDESプロジェクト（2016-2020ケンブリッジ大学・トリニティ・カレッジ / ポー大学など）、ANR LECプロジェクト（2011-2015ポー大学 / ケンブリッジ大学・トリニティ・カレッジ / パリ・ソルボンヌヌーベル大学など）に参加しています。人生と研究を連続的かつ全体的な視点から捉えていると取り組んでいます。

ここ数十年間の認知科学を通じて、私はマインドフルネス（心の健康）・ウェルネス（体の健康）とインターメディア・ポエトリー（視覚的・演劇的要素を入れた詩）には、心身に関する共通点があることを確認することができました。マインドフルネス・ライフスタイルを実践している人は、没入状態に達し、自分の核となる幸福とより深くつながることができます。個人的であると同時に集団的であるこの経験は、ウェルネスと外界（他者、環境）との循環的な関係を生み出すが、そういった関係はしばしば美学（音、言葉、イメージ）にもつながります。インターメディア・ポエトリーもマインドフルネスも世界を規定する。つまり、具現化された認知は世界を単に表象するのではなく（最初のA.I.システム、デカルト思想、文学理論...）、世界を変容させたり、変容されたりします。これは、外部と内部の世界が一つになる現象学的力学により近いと言えるでしょう。ゲラシム・ルカのフランス語圏の作品を例に、インターメディア・ポエトリー詩が、相互作用と変容を可能にする多感覚的な体験（舞台、映画、ラジオ、彫刻...）をどのように生み出すかについて、説明していきたいです。